



今回は 探究活動を生かした進路実現 その6 の報告です。

◇ 片桐昂大さん（名古屋大学法学部）の体験記！

おもな活動記録

- ・2018年度 日本考古学協会高校生ポスターセッション 最優秀賞
口頭発表 代表プレゼンター
論文首席執筆者
- ・2019年度 全国高校生歴史フォーラム 佳作

私はセンター利用型推薦入試で名古屋大学法学部に入学しました。

私は高校時代に多くの活動に参加してきました。私が参加した活動についてですが、全国高校生歴史フォーラム、日本考古学協会ポスターセッション、アレックスレモネードスタンドの開催などがあります。どれも刺激的な活動で、中には大きな成果を残したものもあります。また、これらの活動はどれも私の合格に大きく貢献したものだと思っています。今回は、これらの活動で私が得たものについて紹介しようと思います。

「全国高校生歴史フォーラム」

全国高校生歴史フォーラムとは、奈良大学・奈良県が主催する歴史をテーマとしたコンクールで、別名「地歴の甲子園」とも言われています。個人もしくはグループでテーマを決めて論文を書き、その中から5校の優秀賞を選びます。さらに、その5校が奈良県に集まりプレゼンテーションを行い最優秀賞を決める大会です。

私たちはこの活動で、最優秀賞の相当する学長賞をいただくことができました**(右写真)**。

さらに、私は論文執筆や資料読解に必要な集中力、大勢の前で発表する際に必要なプレゼン能力などを身につけることができたと感じています。これらの能力は大学生活ではもちろん、将来にも必要になる能力だと思うのでこの能力を高校時代に身につけることができたことは幸福だと思います。皆さんはこの能力はSGH活動で身につけられると私は思っています。しかし、SGH活動を実際に行っている間は、かたちになって身につくものが見えず、意味のないことだと思えてくるかもしれません。けれど、この活動を続けていくと最後には必ず「やってよかった」と感じるはずです。これは100%保証できます。ぜひみなさんも勉強だけでなくSGH活動にも力を入れてみてください。



「日本考古学協会総会高校生ポスターセッション」

日本考古学協会総会という学会の場でポスターを掲示し、見に来てくれた方々に詳細を個別プレゼンするという形式の活動です。プレゼンの相手は大学教授などその道のプロばかりです。加えて、1対1のプレゼン形式なので緊張は頂点に達します。しかし、事前に練習を重ね、理解を

深めた結果、非常にスムーズに行うことができました。ここでは、練習の積み重ねの大切さを痛感しました。さらに、この活動ではポスターを見に来てくれる方に自分から声をかけなければ教授方は見るだけで去って行ってしまいます。初めて参加した高校2年生の時はなかなか勇気が出ず「今声をかけるべきだったなあ」と何度も後悔したことを覚えています。しかし、高校3年生の私はこの点を克服し、やり終えた後の達成感は今でも忘れることができません。ポスターやプレゼンの内容は主に近代史のことに関してなのでその知識を深めることができたのはもちろん、それだけではなく一般的に必要なコミュニケーション能力なども鍛えることができたと感じています。

「アレックスレモネードスタンド」

アレックスレモネードスタンド (ALS) とはアメリカで始まったチャリティー活動です。アレックスという小児がんを患った少女が行ったレモネードの屋台を始まりとし、今では世界各国に活動の輪を広げています。寄付金は小児がん研究、ウィッグ等に使用されています。私はこの活動を関市役所で行われる「関いきいきフェスタ」で開催しました。祭りに来る市民の方に企画の趣旨を説明し募金をしてもらおうという形式です。市民の方々は好意的で、いい交流の場になったと感じました。また、普段考えることのない小児がんについて考えるいい機会を提供できたと思います。

現在この活動は後輩へと伝わっています。チャリティー活動というのは自己満足で終わってはいけないと思います。そのためにも活動の継続という観点は大切にすべきです。後輩の皆さんにもこの活動を続けて、関高校=ALS というイメージを確立して行ってもらいたいです。

「まとめ」

後輩の皆さんには勉強はもちろん SGH 部活動にも全力を注ぎ、自分の思い描く未来をつかみ取ってほしいと思います。

最後に・・・ 自分の苦手科目は今すぐにでもつぶしておかないと痛い目見るよ👉



日本考古学協会ポスターセッションにて